

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎: 委員長、○副委員長)
入試審査委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、看護系教員 (講師以上)
カリキュラム委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中田 芳子・中谷 啓子 (教授)、秋元 とし子・瀧澤 直子・望月 好子 (准教授)、二見 眞一郎 (講師)
教務委員会	◎丹澤 洋子 (准教授)、鈴木 陽子 (教授)、新村 直子 (准教授)、阿部 ケエ子・蔵本 文乃・橋田 節子 (講師)、古市 慶子 (事務室係長)
学生委員会	◎中田 芳子 (教授)、湊田 明子 (准教授)、千葉 美果 (講師)、岩屋 裕美 (4月-11月)・坂本 優子 (9月-3月) (助教)、古市 慶子 (事務室係長)
現代文明論委員会	◎中田 芳子 (教授)、小川 景子・湊田 明子 (准教授)、飯室 淳子・二見 眞一郎 (講師)、岩屋 裕美 (4月-11月)・坂本 優子 (9月-3月) (助教)
国際交流委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中田 芳子 (教授)、新村 直子 (准教授)、古市 慶子 (4月-9月) (事務室係長)・寺村 絵美 (10月-3月) (事務室員)
国家試験対策委員会	◎瀧澤 直子・林 真理子・新村 直子 (准教授)、後藤 雪絵 (助教)、2年生代表: 秋元 とし子 (准教授)、千葉 美果 (講師)
人権委員会	人権委員: 非公開 相談委員: ◎瀧澤 直子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、古市 慶子 (事務室係長)
FD委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (教授)、瀧澤 直子 (准教授)
倫理委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、飛田 美穂 (外部委員)、中谷 啓子 (図書館長・教授)、瀧澤 直子 (人権委員会相談委員リーダー)・望月 好子 (総合看護研究施設所長) (准教授)
教育年報編集委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長)・丹澤 洋子 (教務委員長) (准教授)、西山 京子 (4月-9月)・寺村 絵美 (10月-3月) (事務室員)
研究活動の不正防止対策委員会	◎灰田 宗孝 (学長)・吉田 礼子 (学科主任)・中谷 啓子 (図書館長) (教授)、秋元 とし子 (健康推進室長)・望月 好子 (総合看護研究施設所長) (准教授)、櫻井 和好 (事務室長)
大学評価委員会	◎吉田 礼子 (学科主任)・中田 芳子・鈴木 陽子 (教授)、丹澤 洋子・望月 好子 (准教授)、櫻井 和好 (事務室長)
省エネルギー推進委員会	◎灰田 宗孝 (学長)・吉田 礼子 (学科主任)・中谷 啓子 (図書館長) (教授)、秋元 とし子 (健康推進室長)・望月 好子 (総合看護研究施設所長) (准教授)、櫻井 和好 (事務室長)

2) 各委員会活動

(1) 入試審査委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、本学の入学試験の審査に関する事項を審議することを目的とする。

B 活動概要

入学試験実施要項を基に、試験監督および面接要領について確認

C 委員会開催状況

開催日	議 題
11 月 7 日 (水)	2013 年度入試についての諸事項確認・審議

(2) カリキュラム委員会

A 位置づけ・役割

本学における教育理念を具現化し、時代にあったより良い教育を実践するためカリキュラムに関することについて審議することを目的とし、以下の活動を行う。

- ① カリキュラムの作成に関する事項
- ② カリキュラムの総合的な評価・修正に関する事項

B 活動概要

「2009 年度改正カリキュラム評価についての調査報告－学生アンケートおよび看護技術到達度自己評価－」の結果から見出された課題について検討した。全体検討の必要なこと、専門領域で検討すべきこと、委員会で検討すべきこと、継続的検討の必要なこと、教員個々の意識的指導が必要なこと、に分けられ、それぞれに検討することとなった。中でも、全体検討が必要な課題のうち、「教育目標の科目への反映のさせ方」がもっとも優先度が高いと考え、それに焦点をしばり、建学の精神、教育目標、教育目標と科目のつながりについて検討を進めた。その過程において、「建学の精神」「教育目的・目標」「3つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）」について確認され、各科目を教育目標に関連付けるため、「カリキュラムマップ」を作成することが合意された。さらに、シラバスの様式についても、カリキュラムマップを活用するなど何点かを変更した。これらは、カリキュラム委員会が立案し、教員会議で検討した上で決定され、2013 年度のシラバスから導入された。

卒業生を対象とする調査については、4 年ごとにカリキュラム評価・改善をする方針を確認し、2013 年度入学生が卒業する 2015 年度に実施することを確認した。卒業生を受け入れている施設の調査は別途方法を講ずる。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 18 日 (水)	① カリキュラム改善の日程
2	5 月 23 日 (水)	① カリキュラムに関する検討課題について
3	6 月 9 日 (土)	① カリキュラム改善に関する検討のすすめ方および日程調整に

		について
4	6月29日(水)	① カリキュラムに関する検討課題
教員 会議 1	7月18日(水)	① カリキュラムに関する検討課題の検討方法
5	8月6日(水)	① 建学の精神、教育目標、教育目標と各科目のつながりについて
教員 会議 2	8月28日(火)	① 建学の精神と教育目標の整合性について
6	9月19日(水)	① カリキュラムマップの確認 ② シラバスの様式変更について
教員 会議 3	10月17日(水)	① カリキュラムマップの再構築について ② 教育目標を踏襲したシラバス(案)の提案
7	11月21日(水)	① 修正カリキュラムマップの検討 ② シラバスに載せるカリキュラムマップの様式 ③ 実習科目のシラバスについて ④ 今年度卒業生への調査 ⑤ 卒業生を受け入れている施設の調査 ⑥ その他
8	1月23日(水)	① 2012年度活動総括 ② 次年度以降の委員会設置について

(3) 教務委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動概要

委員会活動は、前年度の引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。本学の教務に関する事項を審議する事を目的とし、「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」の2つの小委員会も設けて取り組んだ。

今年度の活動の概要を以下に示す。

① 看護技術教育検討小委員会の活動内容と評価

a. 「看護技術到達度記録」の活用

- ・学生が効果的に活用し自己評価できるように、ガイダンスで説明し、評価への動機づけを行った。
- ・統合実習終了後は「自己の卒業時の到達度」の自己評価への動機づけを実習担当教員に依頼した。
- ・東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の臨床指導者に対しては、実習打合わせ会で説明し、他の施設の指導者に対しては、各看護学実習担当教員に説明を依頼した。
- ・今年度は、1年生と2年生の「看護技術到達度記録」を回収し記入状況の確認ができていなかったため来年度の課題とする。

b. 「臨地実習における看護技術水準の手引き」の活用

- ・学生が臨地実習に於いて、患者の安全と自身の安全のもと看護技術の提供が行えるよう、ガイダンスで活用について説明した。

・東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の臨床指導者に対しては、実習打合せ会で説明し、他の施設の指導者に対しては、各看護学実習担当教員に説明を依頼した。

② 安全教育検討小委員会の活動内容と評価

年2回(前期、年間)「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析を行った。ヒヤリ・ハット内容とその原因から、学生の傾向や指導側の問題が見出され、委員会での検討と3月の報告会で、現状を共有し、今後の対策について検討した。

今年度は、前期ヒヤリ・ハット報告書の教員への提示が11月となってしまい後期の実習にいかせない領域もあった。この反省から、後期実習開始の9月には教員に提示し後期の実習指導に活用できるよう、前期分は報告の内容を一覧したものを資料として作成する。年間の集計と分析結果と対策については、3月の報告会で検討する。

③ 教務委員会報告会の開催

今年度も、2013年3月に全教員を対象に教務委員会報告会を開催し、年間ヒヤリ・ハットの集計結果とその傾向、教員から出された講義・演習・実習に関する意見・問題点とそれらに対する委員会の検討結果の報告を行った。

ヒヤリ・ハット内容として記録にすることが最多であり、過去5年間の結果においても毎年発生内容の第1位となっている。今回は、この「記録にすること」について検討がなされた。記録用紙の紛失や置き忘れはファイルに綴じる事をしていないために発生している。よって、看護過程用紙は必ずフラットファイルに綴じること、行動計画用紙はポケットに入れて持ち歩かないこと、患者情報はアセスメント用紙1に直接記入をすることを徹底していくことが確認された。

④ 講義・演習・実習に関する意見の収集と対策

前期・後期授業終了後、各教員から講義・演習・実習に関する意見を収集し、委員会において検討した。問題点や意見と委員会での検討結果を一覧にし、全教員に配付することで現状を共有した。委員会において検討した内容を、学科主任・関係部署に報告・依頼することで、現状の中でできる最大限の学習環境整備や問題状況の改善につなげた。

実習病棟での実習用備品の不足と補充についての問題提起があった。これについては、まずは、病棟にある実習物品調査から行う予定である。

⑤ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」

入学にあたって、まずは身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について文書で行い、新入生オリエンテーション時に学科主任から学生・保護者に説明がなされた。この説明後に提出された同意確認書の内容を、教務委員長が確認し所定の場所に保管した。

身体侵襲を伴う看護技術の演習では、科目担当者が同意確認書の内容を確認し、所定の手続きを行い実施することとなっている。

⑥ 看護学実習ガイダンス、領域別オリエンテーション、実習病院(東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院)との打合せ会の企画・実施

a. 看護学実習ガイダンスについての企画運営

b. 3年生の領域別看護学実習オリエンテーションの日程調整

c. 東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院との打合せ会の開催

⑦ 実習評価について

看護学実習担当責任者を通じて、2012年度実施された全看護学実習評価を一覧表にまとめた。今年度の評価・反省を生かして、学生にとって効果的な実習となるよう、関係諸施設、臨床実習指導者などと連携していく。

⑧ 実習要綱総説の見直しと修正について

日々の体験記録について、手書きとワープロ使用時の用紙について明確にした。

⑨ 次年度以降の実習計画の立案

2013 年度の実習計画は、2012 年 7 月に開催した東海大学医学部附属病院実習協議会で承認された。2014 年度の実習計画(案)を作成し、2013 年 2 月に開催した前記協議会に提出した。2014 年度以降は、東海大学健康科学部看護学科のカリキュラム変更や、東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の実習の受け入れ状況から、計画内容の検討が必要となる。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 11 日 (水)	① 活動目標・計画、役割の確認 ② 実習打合わせ会の最終確認
2	5 月 9 日 (水)	① 小委員会の活動目標・年間計画 ② 実習打合わせ会の実施報告
3	6 月 13 日 (水)	① 2013 年度実習計画(案)の確認 ② 12KF 看護学実習に関するガイダンスの役割等の確認 ③ 「看護技術到達度記録」紛失時の取り扱い
4	7 月 11 日 (水)	① 2014 年度実習計画(案)検討 ② 前期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ③ 手術衣の購入について ④ 12KF 看護学実習に関するガイダンス実施報告
5	9 月 3 日 (水)	① 前期、講義・演習・実習に対する意見と検討 ② 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 前期、「ヒヤリ・ハット報告」集計・分析と後期への対策
6	10 月 10 日 (水)	① 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 前期、「ヒヤリ・ハット報告」集計・分析と後期への対策 ② 3 年生後期ガイダンス時の「看護技術到達度記録」の説明の実施報告 ③ 前期、講義・演習・実習に対する意見への対策の経過
7	11 月 17 日 (水)	① 2013 年度実習要綱総説の見直し
8	12 月 12 日 (水)	① 後期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ② 2012 年度実習評価 ③ 2013 年度看護学実習オリエンテーション日程
9	1 月 16 日 (水)	① 2013 年度 3 年生 実習グループ編成(案) ② 2013 年度 3 年生・2 年生 看護学実習に関するガイダンス(案) ③ 2013 年度 3 年生 領域別(看護学別)実習オリエンテーション
10	2 月 10 日 (水)	① 2013 年度 3 年生 実習グループ編成(案) ② 2013 年度 3 年生領域別(看護学別)実習オリエンテーション日程 ③ 2013 年度 3 年生 看護学実習に関するガイダンス・実習打合わせ会の配布資料 ④ 2013 年度～2015 年度実習ローテーション ⑤ 2011 年度実習評価 ⑥ 後期、講義・演習・実習に対する意見と問題点の検討 ⑦ 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 「実習記録」の回収と廃棄 b. 2012 年度「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策

11	3月13日(水)	① 小委員会年間活動評価 ② 教務委員会年間活動評価 ③ 2013年度実習打ち合わせ会の確認 ④ 2013年度3年生・2年生 看護学実習に関するガイダンスの最終確認
----	----------	---

(4) 学生委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている。学生と共に考え、一人一人の学生の主体性を尊重し、支援している。

B 活動概要

学生会活動(学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学(部)スポーツ大会など)を中心に学生の活動を支援した。

長年の懸案であった学生会室の掃除を2012年3月の春休みから手掛け、2013年3月に終了した。夏の短期大学(部)スポーツ大会は、参加人数が近年増加していて今年は150名と多くの学生が参加し、優勝を目指して健闘した。クラブ活動では、音楽サークルリンクが再編成してスタートし、ダンス同好会が新規に発足した。飛鷗祭は、昨年度と同様に11月2日はスポーツ大会を盛況のうちに実施することができた。また、大根工芸の方々にも昨年度と同様に手づくりクッキーなどの模擬店を担当していただき、地域との交流を深めた。

C 委員会開催状況

回	開催日	報告・議題
1	4月17日(火)	【報告】学生交流会について 【議題】① 2012年度学生委員会活動について ② 役割分担について ③ 年間計画について ④ 学生交流会について ⑤ 学生総会について ⑥ 飛鷗祭の引き継ぎについて
2	6月14日(木)	【報告】学生総会、三者懇談会及び懇親会について 飛鷗祭の引き継ぎ、役員決定について 【議題】① 飛鷗祭の進行状況 ② 短期大学(部)スポーツ大会 ③ クラブ活動の状況について
3	10月16日(火)	【議題】① 短期大学(部)スポーツ大会の実施状況と来年度の課題 ② 飛鷗祭の進捗状況と今後の指導
4	11月26日(月)	【報告】ダンス部の新設について 【議題】① 飛鷗祭の振り返り ② 選挙管理委員会の設置と今後の指導 ③ 学生生活に関する要指導事項
5	3月12日(火)	【報告】新年度役員の決定 国家試験激励 謝恩会の進行状況

		学生会室の掃除 デンマークからの研修団学生代表の卒業式のあいさつ 【議題】① 学生交流会について ② 年報について ③ 年間の振り返り
--	--	---

(5) 現代文明論委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、講義の編成、運営を行う。

B 活動概要

今年度の授業運営は、昨年を踏襲して実施した。各委員が、学生の授業態度や状況を書面や口頭で委員長に報告し、受講用紙の書き方等について全体に周知しておいた方が良いことは、随時委員長が全体に向けて説明した。また、委員会では、学生の欠席や遅刻、授業態度について検討し、必要時委員長が対応していった。

今年度前期は、学生の質問は少なかったが、授業態度は比較的よかった。後期になると居眠りが目立ち、毎回2名程度の欠席や遅刻する学生がいた。そこで、委員長から全員に注意を促したり、個人的に指導した。また、講師の先生方にも現代文明論を学ぶ意義について説明していただくよう依頼し、後半は少し授業態度の改善がみられた。後期になると大学生活への慣れがあり、飛鳥祭の準備などの忙しさも重なったことが要因と考えられる。また、現代文明論を学ぶ意義についても意識が薄れてくるようなので、何故現代文明論を学ぶのか、1回1回のテーマと現代文明論との関連を説明し、学習の動機づけを丁寧に行っていく必要がある。

C 委員会開催状況

回	開催日	報告・議題
1	4月3日(火)	〔報告〕 ① 講師の変更について 〔議題〕 ① 年間スケジュール ② 役割分担の決定 ③ 諸規定及び運営方針の確認 ④ 現代文明論Ⅰのガイダンスについて ⑤ 2013年度の講師依頼について
2	6月11日(月)	〔報告〕 ① DVD作成について ② 現代文明論教育機関連絡調整会議報告 〔議題〕 ① 現代文明論Ⅰの現状での問題について ② 2013年度の講師、グループワークについて
3	8月1日(水)	〔報告〕 ① 現代文明論センター会議報告 〔議題〕 ① 現代文明論Ⅰの成績について

		② 課題レポートのコメントについて ③ 現代文明論Ⅰまとめ、現代文明論Ⅱのガイダンス等について ④ 2013年度の現代文明論Ⅰ、Ⅱについて
4	9月6日(木)	〔議題〕 ① 2012年度現代文明論Ⅰの授業評価について ② 現代文明論Ⅱの運営について ③ 現代文明論Ⅱのガイダンスについて
5	10月9日(火) (臨時)	〔議題〕 ① 2013年度現代文明論について ② 現代文明論のシラバスについて ③ 現代文明論Ⅰの授業評価について
6	12月26日(水)	〔報告〕 ① 難波教授の最終講義の対応、DVD作成について ② 現代文明論教育機関連絡調整会議報告 〔議題〕 ① 現代文明論Ⅱの学生の現状について ② 現代文明論Ⅱのまとめについて ③ 2013年度の講師について ④ 2013年度のシラバスについて
7	2013年 2月6日(水)	〔報告〕 ① DVDの件について 〔議題〕 ① 現代文明論Ⅱの成績について ② 2013年度からの現代文明論Ⅰ、Ⅱの成績評価について
8	3月6日(水)	〔報告〕 ① 成績の採取結果 ② 2013年度のシラバス 〔議題〕 ① 課題レポートの採点基準(教員用)について ② 年報について ③ 現代文明論Ⅱ授業評価について

(6) 国家試験対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、3年生の指導教員と2年生の指導教員代表で構成し、学生国家試験対策委員、事務室の看護師国家試験担当および図書館等と連携・協働しながら、看護師国家試験に全員が合格することを目指し、学生への支援を計画立案・実施する。

B 活動概要

第102回看護師国家試験受験対象者の全員合格を目指し、学生の国家試験対策委員を中心として、学生が主体的に活動できるよう教育的支援を行う。また、2年生に対しても、学生の国家試験対策委員が中心となり主体的・計画的に国家試験対策に取り組めることを活動方針とした。

主な活動は小委員会を設けた。3年生には、看護師国家試験出題基準を基本に学習内容を設定

し計画的に取り組みができるように指導、助言した。具体的には、①ガイダンス②補講（頻出問題及び平成 25 年看護師国家試験の改正）に対応させた科目の設定③業者模擬試験④過去 5 年間の看護師国家試験問題⑤指導教員による個別的な学習内容の確認指導を行った。また、模擬試験などの結果を踏まえ、特別に支援を要する学生に対し強化を図った。既卒者への対応は、事務室を通して補講や模擬試験の日程等の情報を提供した。

2 年生には、6 月に低学年向け国家試験ガイダンス、2 月に業者模試を実施した。夏期休暇・春期休暇に課題を提示した。また、学生为国家試験対策委員会が中心となり、前期必修問題の解説を配布し、週 1 回小テストを実施した。

3 年生の国家試験対策についてのアンケートの結果では、学習の必要性を自覚し取り組み始めるのは「全臨地実習終了後」であった。従って、今後も早期から計画的・主体的に臨地実習と平行しながら学習することを支援していくことが臨まれる。

C 委員会開催状況

① 3 年生

回	開催日	報告・議題
1	4 月 6 日（金）	<報告・連絡事項> ① 3 年生の春休みの取り組みについて ② 3 年生の 2 年次の国家試験対策実施状況について <審議事項> ① 2012 年度活動目標・年間活動計画
2	5 月 11 日（金）	<報告・連絡事項> ① 活動状況について <審議事項> ① 役割分担 ② 夏季休暇中の受験対策
3	8 月 7 日（火）	<報告・連絡事項> ① 10KF 生の活動状況について <審議事項> ① 2012 年度後期国家試験対策委員会の活動方針と教員への補講依頼
4	12 月 21 日（金）	<報告・連絡事項> ① 10KF 生の活動状況について ② 既卒者の状況について <審議事項> ① 10KF 生の今後の活動計画 ② 強化支援を要する学生の学習計画
5	3 月 12 日（火）	<報告・連絡事項> ① 10KF 生の活動状況について <審議事項> ① 国家試験対策委員会の活動評価

② 2 年生

回	開催日	報 告・議 題
1	4月26日(木)	<報告・連絡事項> ① 10KF 生国家試験対策委員より、11KF 国家試験対策委員への申し送り会実施報告 ② 春期休暇の課題の取り組み、4月5日テスト結果報告 <審議事項> ① 国試対策委員選出
2	5月22日(火)	<報告・連絡事項> ① 業者ガイダンスについて
3	6月27日(水)	<報告・連絡事項> ① 11KF 生の国家試験対策取り組みについて ② 業者ガイダンス開催報告・アンケート結果開示
4	7月10日(火)	<報告・連絡事項> ① 夏季休暇中の国家試験対策について ② 夏季休暇終了後の対応について ③ 11KF 生の国家試験対策取り組みについて
5	1月24日(木)	<報告・連絡事項> ① 2012 年度活動報告 <審議事項> ① 春期休暇中の課題設定について ② 2月1日業者模試について
6	2月19日(火)	<報告・連絡事項> ① 10KF 生国家試験対策振り返り会の報告 ② 春期休暇課題対象者への対策について <審議事項> ① 次年度国家試験対策委員長選出 ② 2013 年度活動計画 ③ 指導方法

(7) 国際交流委員会

A 位置づけ・役割

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の航海研修およびハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。

B 活動概要

2012 年度第 38 回デンマーク看護研修は、独立行政法人日本学生支援機構「留学生交流支援制度(ショートビジット)プログラム」に採択され、奨学金を得ることができた。それにより、参加学生は 19 名となり、ここ 2 年間 10 名のみであった状況が改善された。プログラムとしても、新たに幼稚園に参加型での見学が企画され好評であった。

また、今年度は、夏季休暇中にデンマーク看護学生 2 名のプライベートな訪問依頼を受け入れた。さらに、2011 年度は東日本大震災の影響から参加希望者がなく中止したデンマーク看護学生の訪問が 1 年遅れで実施され、受け入れ担当のリーダーとなる教員を中心として、教員・学生の協力を得て研修プログラムを企画・運営した。

海外研修航海にも、2名の学生が参加した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月29日(木)	① 2012年度第38回デンマーク看護研修進行状況について ② デンマーク看護学生2名の受け入れについて ③ 2012年度デンマーク看護学生研修団の受け入れについて ④ その他
2	7月19日(金)	① 2012年度デンマーク看護研修進捗状況について ② デンマーク看護学生2名受け入れの進捗状況について ③ デンマーク看護学生研修団の受け入れについて ④ 第44回海外研修航海について ⑤ ハワイ英語研修について ⑥ その他
3	11月27日(火)	① 2012年度デンマーク看護研修報告・評価 ② 2013年度デンマーク看護研修に向けて ③ 2012年度海外研修航海・ハワイ語学研修応募状況 ④ 2012年度デンマーク看護学生研修団受け入れについて
4	2月18日(月)	① 2013年度デンマーク看護研修に向けて ② 2012年度デンマーク看護学生研修団受け入れについて

(8) 人権委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。学生の教学上（教育、研究及び課題活動を含む学生生活）、業務上等の関係を利用してなされるハラスメント防止と被害者の救済を行う。

B 活動概要

ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を設置する。相談委員名については、キャンパスナビに記し、学生ガイダンスで伝えている。2012年度は4月の学生ガイダンスの際に、「ハラスメントの加害者にならないために」について、また「被害にあった場合の対応や相談窓口」について説明した。

2012年度全体を通して、学生および職員からの相談はなかった。

C 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(9) FD委員会

A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務化された事をうけ、同年、本学における教員の資質開発を目的としFD委員会が設置された。委員会は、以下の活動を行う。

- a 教育活動支援
- b 研究活動支援
- c その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動概要

活動計画に沿い3回の研修会を企画・開催した。詳細は以下の通り。

a 第1回 FD 研修会

講演会「学士課程におけるカリキュラム作成と評価の動向 ―看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究にかかわって―」

目的:カリキュラムの改善に際し、大学における看護基礎教育のカリキュラム構築の理念と方向性について見識を深める。

内容:学士課程における教育目標、目標の教育への具現化、達成度を見るための成果の評価

講師:高橋 真理教授(北里大学看護学部学部長・教授)

日時:2012年6月9日(土)10:00~12:00

出席:教員13名

b 第2回 FD 研修会

授業法研究会:2012年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による授業公開

目的:学生が選んだ「いい授業」はどのように創りだされているのか、講師による公開授業と講演を手がかりに教授法に関して示唆を得る。

内容:「私が授業で大切にしていること ―4年間の授業の軌跡から―」

『看取りの援助技術』『デスカンファレンス』

講師:蔵本文乃講師(「健康の段階と看護基礎技術」担当)

日時:2012年8月28日(火)10:00~12:00

出席:教員15名

c 第3回 FD 研修会「研究・教育活動報告会」

目的:教員各自が取り組んでいる研究活動、教育活動とその成果を共有し、今後の研究・活動に活かす。

内容:午前 発表1 中田 芳子「在宅看護論実習における退院支援・退院調整部門での学生の学び」

発表2 坂本 優子「タッチで癒すタクティールケアについて」

発表3 淵田 明子「子どもを看取った看護師の思いの変化とその影響因子」

発表4 橘田 節子「そらぷちキッズキャンプの取り組み ―排泄管理が必要な子どものキャンプの実際―」

午後 発表5 蔵本文乃「基礎看護学実習における学生の血圧測定技術の習得プロセス」

発表6 望月 好子「看護技術教育における効果的な自己学習支援システムの構築と評価」の経過報告

発表7 千葉 美果「モバイル端末器を用いた看護技術習得にむけた支援方法の報告」

全体討議

日時:2013年3月5日(火)10:00~16:00

出席:教員18名

＜まとめと課題＞ 研修会は年3回で妥当であった。今年度で2回目となる「研究・教育活動報告会」は興味深い内容で活発な質疑応答が交わされた。次年度も継続するが、十分に学ぶには7題は多いとの意見もあったため検討する。ここ2年間は、教育に関する研修を主に行ってきたが、次年度は、総合看護研究施設と連携しながら研究支援に関する研修についても取り入れてゆくとともに、2013年度で5カ年計画が終わるので、次の5カ年に向けての活動計画を立てる。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月24日(火)	① 2012年度活動計画 ② その他
2	5月16日(水)	① 講演会のテーマ、講師、タイムスケジュール等について
3	7月11日(水)	① 講演会の評価 ② 授業法研究会について
4	9月27日(木)	① 授業法研究会の評価 ② 研究・教育活動報告会について ③ FD推進活動に関する学外研修について
5	11月28日(水)	① 研究・教育活動報告会について
6	12月21日(金)	① 研究・教育活動報告会について ② FDに関する外部研修会の参加について
7	1月30日(水)	① 研究・教育活動報告会について ② FDに関する外部研修会の参加について
8	3月19日(火)	① 研究・教育活動報告会の評価 ② 2012年度総括 ③ 2013年度年間計画

(10) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動概要

本年度の倫理審査申請は学内6件、うちわけは、「初回審査での可(付帯事項有)1件」、「再審査での可(付帯事項有)3件」、「審査対象外となった後、再度申請され再審査により可(付帯事項有)2件」であった。

そのほかの活動は、以下の通りである。

- ① 他大学に在籍し指導を受けている場合の倫理申請の手続きが不明確であったため検討し、「倫理審査申請の手引き」に明文化した。
- ② 審査結果の表現を「可」「不可」の2種類から、「可(付帯事項なし)」「可(付帯事項あり)」「要再審査」「不可」に改めるなど、全体的に「倫理審査申請の手引き」を見直し、「2013年改

訂」版として更新した。

- ③ 倫理審査で承認された範囲を超えた調査が行われた事例があり、対応を協議し対処した。
- ④ 本委員会は「委員会規程」に基づき、倫理審査の実施を目的とすることを確認し、倫理研修については、FDとしての企画を依頼することとした。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月4日(水)	① 倫理審査 初回審査2件 ② 2012年度委員会開催日について
2	5月9日(水)	① 倫理審査 初回審査1件 ② 審査結果通知について
3	7月4日(水)	① 倫理審査 再審査2件
4	8月2日(水)	① 倫理審査 初回審査1件
5	11月7日(水)	① 倫理審査の承認外のデータ収集について ② 倫理審査 初回審査2件
6	12月5日(水)	① 倫理審査 初回審査2件、再審査1件
7 臨時	12月19日(水)	① 倫理審査 初回審査1件
8	1月9日(水)	① 倫理審査 再審査1件 ② 倫理審査における付帯事項に関する修正報告について ③ 学外者の倫理審査申請についての検討 ④ 倫理審査の承認外のデータ収集について
9	2月6日(水)	① 倫理審査申請の手引きの見直しと修正
10	3月6日(水)	① 2012年度総括 ② 倫理委員会主催の研修会について

(11) 教育年報編集委員会

A 位置づけ・役割

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育研究年報は自己点検・評価の一環として位置づけられるとともに、広く社会に本学の教育研究活動の取り組みを公表することを通し批判を乞うことを目的として発刊する。本委員会は、その趣旨に基づき、以下の役割を担う。

- 1 教育研究年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
- 2 提出された原稿が基準に則り適切に記述されているかを査読する。

B 活動概要

2011年度教育研究年報を査読した。また、カリキュラム委員会からの要請をうけて、科目概要の実施の振り返りと改善策を記述するよう「作成の手引き」を改めた。「作成の手引き」に基づき、教職員に2012年度教育研究年報の原稿執筆を依頼した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	7月～8月	第1回紙面会議（原稿を回覧、査読）
2	12月	第2回紙面会議（「作成の手引き」の一部変更）

(12) 研究活動の不正防止対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、本学における研究活動に係わる不正防止と研究費及び競争的資金等の運営・管理を適正に行うために、設置され、次の役割を担っている。

- (1) 学内での研究活動の不正防止に関する啓発
- (2) 学内での研究活動の不正防止対策に関する検討及び実施
- (3) 学内での研究活動の不正に関する調査委員会の設置
- (4) 学内での研究活動に関する不正告発相談窓口の設置

B 活動概要

研究活動の不正事項がなかったため、特別な活動は行わなかったが、2013年度より研究活動の不正防止に関するガイドラインを作成し、啓発活動に取り組む予定である。

C 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(13) 大学評価委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、本学における教育・研究及び組織・管理運営の質的向上を図るため、必要な事項の審議・点検・評価活動を行い、学長に答申することを目的とする。

B 活動概要

カリキュラム評価委員の活動と連携しつつ、大学全体についての点検・評価を行い、課題の有無とその改善策について検討した。建学の精神の確認と、教育目的・目標と各授業科目との関連付け、3つの方針の明文化、学習成果を中心とした教育の実施と評価など、すでにあるものは、よりわかりやすく整理して表現するとともに、早急に改善すべきことは、点検・評価と合わせて順次改善を働きかけた。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	10月2日(火)	① 評価の具体的進め方
2	11月14日(水)	① 各委員の分担範囲の進捗状況報告 ② 基準Ⅰ建学の精神、基準Ⅱ教育課程と学生支援、基準Ⅲ教育資源と財的資源 A人的資源に関する観点ごとの点検・評価
3	12月18日(火)	① 基準Ⅰ～Ⅲ-Aに関する課題とその改善策の検討 ② 3つの方針の明確化 ③ PDCAサイクルの意識化

4	1月18日(金)	① 基準Ⅲ教育資源と財的資源の点検・評価 ② 基準Ⅲに関する課題とその改善策の検討
5	2月12日(火)	① 建学の精神と3つの方針 ② 基礎資料 ③ 基準Ⅰ・Ⅱについて、区分ごとの現状と課題
6	2月18日(月)	① 基準Ⅱの現状と課題
7	3月7日(月)	① 基準Ⅲの現状と課題
8	3月15日(金)	① 基準Ⅲ・Ⅳの現状と課題、基準Ⅱ・Ⅲテーマの要約と改善計画 ② 選択的評価基準 ③ 区分ごとの課題の再確認
9	3月26日(火)	① 基準Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテーマごとの要約と改善計画 ② 基礎資料 前回「向上・充実のための課題」として指摘された点への対応、および領域別課題の有無と改善の確認。

(14) 省エネルギー推進委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、本学の省エネルギー対策を推進するための取組方針及び目標等を策定することを目的とする。

B 活動概要

省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全について、冷暖房の温度設定、ゴミの分別収集等学内において学生、教職員に対して掲示等で周知し、配慮を呼び掛けた。

C 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

2 学外委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員
東海大学短期大学（部）紀要委員会	紀要委員会委員：灰田 宗孝（学長）、櫻井 和好（事務室長） 審査委員会委員：望月 好子（准教授） 編集委員会委員：望月 好子（准教授）
現代文明論連絡調整会議	中田 芳子（教授）

2) 各委員会活動

(1) 東海大学短期大学（部）紀要委員会

A 位置づけ・役割

東海大学短期大学部、東海大学医療技術短期大学、東海大学福岡短期大学は、協同して紀要発行することとし、紀要の企画、編集及び発行のために、東海大学短期大学（部）紀要委員会、東海大学短期大学（部）紀要審査委員会、東海大学短期大学（部）紀要編集委員会を置く。

B 活動概要

紀要委員会は、紀要の企画、編集及び発行を統括する。第1回紀要委員会を開催し、2011年度紀要第45号発刊に向け、規定、委員会委員、発刊計画について審議した。本委員会の長は、各短大学長の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

紀要審査委員会は、紀要委員会からの委嘱を受け、論文審査及び論文掲載の可否に関する判定を審議した。本委員会の長は、審査委員の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

編集委員会は、紀要委員会からの委嘱を受け、紀要発行の業務を遂行した。本委員会の長は、各短大編集委員の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

2012年3月15日、東海大学短期大学紀要第45号を発行した。

C 委員会開催状況

委員会	開催日	開催場所	議題
第1回 審査委員会	9月17日（土）	代々木校舎 会議室	① 審査の基本方針 ② 投稿原稿の状況確認及び審査について ③ 投稿原稿の査読者の選定 ④ 査読報告書・修正意見回答書 様式 ⑤ 今後のスケジュール
第2回 審査委員会	11月5日（土）	短期大学部 会議室	① 第1回委員会議事録の確認 ② 査読結果及び掲載の可否確認について ③ 査読結果通知文書の確認 ④ 査読結果の疑義の申し入れ ⑤ 査読を要する修正論文の提出期限 ⑥ 今後のスケジュール

			⑦ 他大学への査読依頼 ⑧ 来年度紀要に対する改善策及び編集委員会への申し送り事項 ⑨ その他
第1回 編集委員会	11月5日(土)	短期大学部 会議室	① 紀要第45号の発刊計画について ② 査読結果等の報告について ③ 編集方針(テンプレートの体裁・掲載順)について ④ 今後のスケジュールについて ⑤ その他
第2回 編集委員会	2月15日(水)	短期大学部 会議室	① 紀要第45号の論文内容についての最終校正について ② 次年度申し送り事項について ③ 紀要第45号印刷について ④ 紀要発送先について ⑤ その他

(2) 現代文明論連絡調整会議

A 位置づけ・役割

法人の「現代文明論研究センター」の基本方針に基づき、学園全体で実施する現代文明論を調整する機関として「現代文明論教育機関連絡調整会議」を置く。法人の教育方針に沿った学園全体の統一性、整合性を維持するための講義計画案や方法論を協議する。

B 活動概要

法人の教育方針に沿った学園全体の統一性、整合性を維持するための講義計画案や方法論を協議した。

- 1) 2012年度の現代文明論の実施状況
- 2) 2013年度の現代文明論の実施方針
- 3) 高校現代文明論について

C 委員会開催状況

回	開催日	開催場所	議 題
1	6月2日(土)	代々木校舎 人事課会議室	① 2012年度「現代文明論」実施状況について (大学、短大、高等学校) ② 「現代文明論2」の進捗状況について ③ 現代文明論センターの活動報告
2	11月24日(土)	代々木校舎 第一会議室	① 2012年度「現代文明論」実施状況について ② 2013年度の「現代文明論」授業編成と実施方法について ③ 「現代文明論Ⅱ」について